

学校施設を含む避難所の空調確保を

Q 山田・栗源地区へのマンホールトイレ設置は考えているか。

A 放流先が下水道施設のため、下水道施設のない地域では導入ができません。

Q 避難所とされる体育館等の暑さ寒さ対策は。

A 寒さ対策は、主に石油ストーブや毛布を活用し、床等に設置するアルミ折りたたみマットを備蓄しています。暑さ対策は、避難所内の状況を定期的に測定し、避難者の体調観察等を実施することで熱中症の予防に配慮する他、冷却タオル等の暑さ対策の防災備蓄品の調達を予定しています。

Q 学校が機能しないときの児童・生徒の学習場所は。

A 避難所となった学校ができるだけ早期に授業などの教育活動を再開できるように避難住民の収容場所は主に体育館としています。学校再開後は、体育館での授業等を含め、通常の教育活動が可能となるように関係機関と協議しながら適切に対応します。

香取市待望の産婦人科施設が令和8年3月に開院予定



たかぎ ひろし
高木 寛 議員

Q 香取市では県立佐原病院で分娩業務が休止後、産婦人科施設の誘致は重要課題であり、多くの市民も待ち望んでいる。誘致の場所及び建物予定面積は。

A 場所は香取市佐原字粉名□□2127番35及び36の2筆です。建物は1階と2階に合わせて約1800㎡と伺っています。

Q 開院までの経費は。

A 概算で約15億円と伺っています。

Q 診療科目及びスタッフの確保は。

A 診療科目は産婦人科及び乳幼児健診などを行う小児科で、スタッフは常勤医師2名、非常勤医師6名から8名で、総従業員数約30名の見込みと伺っています。

Q 開院時期と工程は。

意見 災害は必ずやって来ます。健常者も避難弱者も皆が安心できる環境を整備し、防災・減災に取り組むことが重要と考えます。

岩手県山田町との友好都市協定の締結を

Q 友好都市協定の交流内容は。

A 友好都市協定または、姉妹都市協定を結んでいるのは、5団体です。令和5年度は、市長が兵庫県川西市、佐賀県鹿島市、サイパン市を表敬訪問しました。また、佐原の大祭に合わせて、川西市長、鹿島市長、サイパン市長が香取市を来訪しました。市民や民間レベルによる交流としては、福島県喜多方市の産業まつりなどへ出展しPRを行いました。コロナ禍後の新たな交流手段として、鹿島市、サイパン市と、小中学生によるオンライン交流も行っています。



なるけ のぶよし
成毛 伸吉 議員

Q 産婦人科施設の誘致は、早い段階での完成を望むが、重要な課題への市長の対応は。

A みずたに会と十分に協議をしながら、課題解決に努め、引き続き可能な限り支援していきます。

香取おみがわ医療センター常勤医師等の概要は

Q 香取おみがわ医療センターは、令和元年9月にオープンし、前病院同様に香取市及び北総地域の中核病院であると認識している。開院時と現在の医師等の比較は。

A 常勤換算した医師数は2.1名増で、看護師数は5.5名増、准看護師数3名減です。

スポーツ少年団への支援金増額を

Q 市からスポーツ少年団に対して助成金の増額の考えは。

A 活動の継続及び充実を目指し、必要な環境整備に取り組んでいきたいと考えています。

Q スポーツ少年団に未登録の類似団体はどのくらいあるか。

A スポーツ少年団に未登録の類似団体は、把握していませんので、学校施設の開放事業を利用している団体のうち、スポーツ少年団以外の、主に小学生向けの活動をしている団体として、令和6年度は34団体あります。

意見 スポ少の活動は、子育て支援の一環だと思います。香取市の未来を担う子ども達が好きなことを思う存分取り組める環境を作っていくことが行政と私たち大人の役目だと考えます。

Q 開院時と現在の診療科目の比較は。

A 診療科目は、令和2年4月から形成外科が加わりました。

Q 令和2年度と令和5年度の入院患者数及び外来患者数の比較は。

A 入院患者数は、1日平均3.5人減、外来患者数は、1日平均64.3人増です。

Q 救急患者の受け入れ体制及び他病院との連携は。

A 平日・日中は、内科常勤医師が増員となり受入体制を強化し、夜間・休日には、非常勤医師の派遣が維持できるように努めたことです。他病院との連携は、香取郡市病院長会議で、宿日直や夜間検査などの救急体制に関する協議を行い、共通課題への対応を共有し改善に取り組んでいることです。

Q 常勤医師数の確保など、重要課題への市長の見解は。

A 香取市が香取おみがわ医療センターに対して示している中長期目標の中で、常勤医師の確保について記載しています。香取おみがわ医療センターとともに、安心安全な医療を提供し、地域医療の充実を図り、地域の期待に応えられるように努めます。